

営農情報 (麦)

第34号 平成30年12月3日

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

平成31年産麦の播種は11月下旬を中心に概ね順調に行なわれました。今後は、排水対策及び雑草対策を徹底するとともに、麦踏み・土入れを励行しましょう。

1 施肥基準

緩効性肥料による追肥は、施用時期を極端に遅くすると、倒伏につながる恐れがあるので、遅播き（12月中下旬播き）のほ場においても施用時期を守りましょう。

(kg/10a)

品種名	肥料名	1月中～下旬	(穂揃い期)
シロガネコムギ	麦追肥一発2号	40	—

(kg/10a)

品種名	肥料名	1月下旬 ～2月上旬	穂揃い期 (4月18日頃)
ちくしW2号	硬質小麦専用追肥	35	10 (硫安)

※ タンパク質含有率を高めるため、硬質小麦専用追肥を用い、穂揃期追肥も行いましょう。

※ 穂揃期追肥は、赤かび病防除と同時に、尿素による葉面散布も可能です。その場合、10a当たり尿素4kgを、水100リットルに溶かして散布します。

2 雑草防除

＜スズメノテッポウ等のイネ科雑草が発生している場合＞

ハーモニー75DF水和剤の場合、液量が少ないと効果が不十分なので、10a当たり水100リットル使用します。また、薬害防止と除草効果安定のため、薬剤散布直前～散布後1週間以内の麦踏み・土入れは避けます。

農薬名	適用雑草	使用時期	使用量 (10a当たり)	備考
ハーモニー細粒剤F	スズメノテッポウ 一年生広葉雑草	播種後～麦3葉期まで (雑草発生前～ 発生始期)	4～5kg	ハーモニー細粒剤Fと ハーモニー75DF水和剤は いずれか一回しか 使用できません
ハーモニー75DF 水和剤	スズメノテッポウ 一年生広葉雑草	播種後～節間伸長前まで	7.5～10g (水100L)	
	一年生広葉雑草	節間伸長開始期～ 穂ばらみ期まで (収穫45日前まで)	3～5g (水100L)	※適用拡大

※ハーモニー75DF水和剤の適用拡大について

ハーモニー75DF水和剤は、一年生広葉雑草を対象とする場合、穂ばらみ期まで使用できます。(節間伸長開始期以降は、10a当たり使用量が減るのと、スズメノテッポウは適用外のため注意が必要です)

<広葉雑草のみが発生している場合>

雑草の種類に合った薬剤の選択が必要です。麦作こよみを参考に、雑草の種類を見極めて下さい。

除草剤名	使用時期	10a使用量	注意点
アクチノール 乳剤	穂ばらみ期まで 目安：1月中旬～3月上旬	150～200ml	カラスノエンドウに効果高い キンポウゲ類への効果劣る
バサグラン 液剤	麦類の生育期 (小麦：収穫45日前まで 大麦等：収穫90日前まで) 目安：1月中旬～2月上旬	100～200ml	キンポウゲ類に効果高い カラスノエンドウへの効果劣る 散布後の降雨で効果劣る 高温・晴天時が効果高い

※農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに注意してください。

野菜等、他作物にかかった場合、薬害だけでなく、農薬残留基準値オーバーによる出荷停止など、大きな経済的損失を被る場合があります。

3 麦踏み、土入れ

(1) 麦踏みは、倒伏及び徒長防止に効果があり、麦の葉が3枚以上になってから行います。1月上旬～2月下旬（節間伸長開始期頃まで）に、間隔をあけて3～4回程度実施します。

土が乾燥し、茎葉に霜や露がない時に実施します。湿った状態で行なうと、土が締まって排水性が悪くなり、麦の生育に悪影響を与えるので注意しましょう。

(2) 土入れは、麦の葉の枚数が3～4枚になったら始めます。実施時期は、1月上中旬、2月上旬、3月上旬頃の3回くらいが適当で、麦踏み前に実施します。

1回目は浅く、2、3回目は麦の生育に伴って土入れの量を増やします。雑草防除や排水向上、無効分げつの抑制、倒伏防止などにも効果があります。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！